

都市再生整備計画(第3回変更)

木田駅周辺地区

愛知県 あまし

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	愛知県	市町村名	あま市	地区名	木田駅周辺地区	面積	77.7 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度				

目標 大目標:安全・安心とにぎわいを生む駅周辺のまちづくり 目標1:誰もが安全・安心に生活できるまちづくり 目標2:駅を安心・快適に利用できるまちづくり 目標3:地域住民の交流によるにぎわいを生み出すまちづくり
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 【地区概要】 ・本市は愛知県西部に隣接し、平坦な地形に市街地と農地が広がる都市であり、名古屋市中心部から公共交通機関で約15分という立地条件から近年宅地化が進んでいる。一方、市内のほぼ全域は海拔ゼロメートル地帯に属し、洪水時の浸水等の懸念がある。 ・本地区は、名鉄津島線が東西に横断し、木田駅を中心に形成された市街地である。木田駅は名古屋から約12kmと交通利便性の高いエリアとなっており、駅周辺の街なか居住拠点の一環として、平成26年から防災における消防活動困難区域の解消、及び良好な宅地供給による人口増加を図るため、あま木田郷南土地区画整理事業を推進している。 【経緯】 ・今回の都市再生整備計画事業より、平成21年度から平成25年度に「災害に強い、安全安心な駅周辺のまちづくり」を目標に第一期事業による各種事業を進め、(1)当初の課題、(2)第一期事業による事業効果、(3)完了後に残された課題や新たに生じた課題を以下のとおりまとめる。 (1)当初の課題について ①木田駅は北改札口のみで、駅へのアクセス道路は幅員が狭く、歩道も未整備のため、歩行者が危険にさらされており、また、駅前広場もなく、通勤通学時間帯は送迎車両等で混雑していたが、名古屋鉄道は平成22年を目標に南開札口開設の計画が進み、整備が急務となった。 ②地形的に窪地でゲリラ豪雨による道路冠水が頻繁し、木田排水機場を効率よく稼働させるため、調整池や水路整備が必要であった。 ③駅周辺という商業環境に恵まれていた事から、まちにはにぎわいがあったが、時代の変化に伴い、活気・にぎわいが薄れてきた。 (2)第一期事業による事業効果について ①平成22年の駅南改札口開設を契機に、駅前広場・木田駅前線の一部及び駐輪場を整備し、通勤・通学等における交通利便性が向上し、駅の利用者数も増えている。 ②木田排水機場の整備と併せた排水施設の整備と共に、梅雨時の雷雨等局所的な豪雨に対する調整池を整備し、道路冠水等を軽減し、安全に暮らせる環境づくりを推進した。 ③まちづくり活動として、地元ボランティアによる安全パトロール・美化活動などが行われており、令和元年度からまちづくり協議会が再発足、新たな駅周辺のにぎわい創出に向けて検討が始まった。
課題 (3)残された課題や新たな課題について ・調整池容量は将来計画ではまだ十分でないため、頻発・激化する豪雨に対して、引き続き、道路冠水が軽減できるよう、安全・安心の生活環境整備を進める必要がある。 ・木田駅前線は計画路線の全線整備は必要であるため、駅周辺の歩行者・自転車の通行環境や駅前の公共空間の利便性の向上等に向け、引き続き、道路整備等を進める必要がある。 ・駅を利用する人の流れが変化し、整備した駅前広場に滞在できる快適な施設環境の一層の向上が必要である。 ・土地区画整理事業による宅地化が進み、新住民が増えることから、社寺や祭事等の地域資源の活用やイベント開催等により、新旧住民の交流を通じて地域コミュニティの結束を高め、にぎわい形成・魅力向上のための取り組みを進める必要がある。 ・まちづくり協議会が今後も地域まちづくりの母体として継続を図る必要がある。
将来ビジョン(中長期) ・本市では「勇健都市あま 未来へ動く」を基本理念のもと、安全で魅力ある都市空間の構築に向けた都市拠点づくりを進める。 ・本地区は、第1次あま市総合計画において、鉄道駅を中心とする「街なか居住拠点」を形成する住宅や商業地に位置づけられ、既決定都市計画道路の整備を推進し、交通量の多い道路については、バリアフリー化等による歩行者の安全性を確保する。 ・あま市都市計画マスタープランにおいて、「街なか居住拠点」として、市街地・地域の骨格を成す幹線道路・駅前商業地など人口集積等にふさわしい良好な都市基盤を備える。 ・あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、人口減少を抑える施策の一層の推進を図るため、都市基盤の整備及び鉄道利用の促進に取り組む。 ・本地区から下流河川への許容放流量を満足させるため、木田地区排水基本計画において、雨水の流出を抑制する施設が必要となる。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
災害に対する不安の改善度	ポイント	5段階評価のアンケート調査の平均値 (従前値2.5から目標値2.7) (満足5、やや満足4、普通3、やや不満2、不満1)	安全・安心な暮らしを支えるため、調整池整備等による、日常生活における不安の解消を図る。	3	令和2年度	3	令和7年度
地区内の歩行者通行量	人/日	木田駅前線他の歩行者通行量	駅周辺の道路整備等により、交通の利便性や安全性を向上させ、快適な道路空間の確保を図る。	1,395	令和2年度	2,040	令和7年度
まちづくり活動参加人数	人/年	地域住民が開催するまちづくり活動の参加人数	愛着を持てる・魅力あるまちづくりを進めるため、地域活動を活発にする意識づくりや人とのつながりを維持形成する。	30	令和2年度	100	令和7年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【誰もが安全・安心に生活できるまちづくり:排水施設整備の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻発・激甚化する豪雨に対して、調整池を整備して道路冠水等をなくし、安全な生活環境づくりを行う。 ・住宅地周辺の水路を改修し、安心して暮らせる環境づくりを行う。 	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下式調整池整備事業 ・市道木田駅前線整備事業 ・市道木田117号線整備事業 <p>■提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心設備事業(水路改修等) ・事後評価分析業務
<p>【駅を安心・快適に利用できるまちづくり:交通の利便性や安全性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前道路、駅へ通じるアクセス道路の整備を行い、交通利便性と歩行者の安全性向上を図る。 ・駐輪場の整備により、自転車による駅利用の利便性向上を図る。 ・ポケットパーク等の整備により、快適に駅周辺を利用できる道路空間を確保する。 ・トイレの整備により、人の流れの変化に伴う駅前広場に滞在できる快適な施設環境を確保する。 ・生活利便施設の整備により、快適で楽しく暮らせることから、地域の住み心地の良いまちづくりに寄与する。 	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道木田駅前線整備事業 ・市道木田117号線整備事業 ・木田駅前駐輪場整備事業 ・多目的トイレ整備(バリアフリー対応) <p>■提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会活動 ・事後評価分析業務
<p>【地域住民の交流によりにぎわいを生み出すまちづくり:駅周辺のにぎわい創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業の宅地化による新住民の増加を踏まえ、地域コミュニティの結束を高め、社寺や祭事等の地域資源の活用やイベント開催等、新旧住民の交流によるにぎわい形成のための取り組みを進める。 	<p>■提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会活動 ・事後評価分析業務
<p>その他</p>	
<p>■地区の関連事業</p> <p>本地区内で「あま木田郷南土地区画整理事業」による宅地分譲が始まっており、地区内の人口増加が見込まれている。</p> <p>公共下水道整備事業について、市内全域を対象にH22年度から供用開始区域を広げ、あま市公共下水道重点アクションプランにおいて、R7年度迄に本地区は完了する計画である。</p> <p>緊急農地防災事業により、本地区にて、流域開発に伴う水路排水能力不足及び経年劣化による脆弱化から湛水被害が生じているため、R2年度迄に排水機場遊水池造成を行う。</p> <p>■継続的なまちづくり活動</p> <p>本地区において、都市計画道路木田駅前線の先線、接続する都市計画道路北苅木田線及び都市計画道路花正下田線など未着手路線の整備を継続的に遂行し、まちの成熟を図る。</p> <p>令和元年度からまちづくり協議会が再発足し、駅周辺の整備やコミュニティ向上によるにぎわい創出等について検討を進め、今後の地域まちづくり推進の母体として継続を図る。</p>	

